

第2回薬剤耐性(AMR)対策普及啓発活動表彰

ネットワークによる双方向性配信を利用した 薬剤耐性(AMR)対策の啓蒙活動

北海道大学病院 感染制御部

【活動概要】

ネットワークによる双方向性配信を利用した薬剤耐性(AMR)対策の啓蒙活動は、①J-SIPHEを通して明らかとなった各施設の抗菌薬適正使用や感染対策上の問題点解決の助けとなると同時に、②都市圏の医療機関と都市圏から離れた医療機関との情報格差の是正、③感染防止対策加算を取得していない医療機関に対する薬剤耐性(AMR)対策の啓蒙に寄与することができる。

【活動内容】

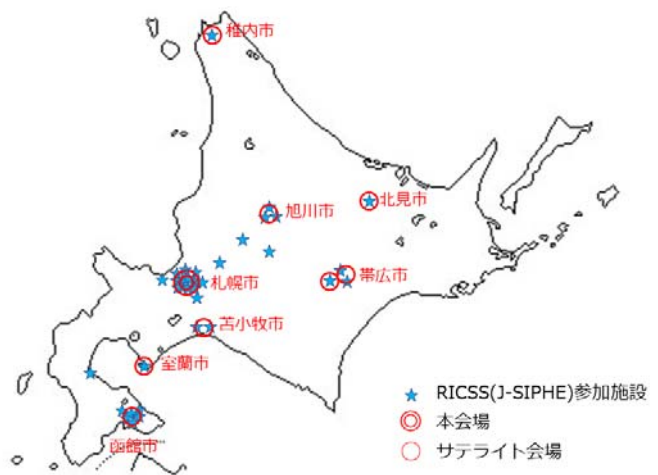
耐性菌検出状況、抗菌薬使用状況、感染症発生状況、ICT活動状況等の情報を中央のサーバーに収集し、様々な集計結果をインターネットを介してフィードバックするJ-SIPHE(旧RICSS)は、少ない労力で自施設の問題点を発見できる画期的なシステムである。

J-SIPHEを通して明らかとなった自施設の問題点を解決する際に、情報交換の輪が大きければ大きいほど、問題解決の糸口を見つける確率が高くなる。

そこで、ネットワークによる双方向性配信を利用した情報交換の場として「Kitanippon Infection Control Seminar(KICS)」を立ち上げた。都市圏から離れた医療機関の感染症診療及び感染対策のレベルアップのみならず、感染防止対策加算を取得していない医療機関に対する薬剤耐性(AMR)対策の啓蒙に寄与することができる。

7月21日に第1回のセミナーを開催し、本会場とサテライト8会場を合わせて、121名(医師/薬剤師72名, 看護師30名, 臨床検査技師19名)が集まった。アンケート結果の一部を記載するが、大変好評であった(右表)。

今後も定期開催(年1回以上)する予定である。



RICSS(J-SIPHE)参加施設とネットワークによる双方向性配信の会場

第1回KICSアンケート(抜粋)

- 広すぎる北海道内で様々な施設状況の感染対策の改善に使える情報が聞けるのはありがたい。
- 「感染対策システム」が導入されていない施設にとって、J-SIPHEは煩雑な業務をアウトソーシングできる可能性があることを知ることができた。
- 参考になる話が多かったです。自施設の状況と他施設の比較をしながらきくことができました。
- 研修医たちにも今度は絶対に聞かせたいです。